

# 発達支援センター通信

◆野洲市発達支援センター TEL587-0033、FAX587-2004

広報「やす」:2026年3月号掲載

## 「乳幼児のコミュニケーションと社会性の芽生え

発達障がいのある子どもは、コミュニケーションに苦手さを感じやすいと言われています。早期に周囲がその子の発達の特性に気づき、その子に合った関わりをしていくことは、社会性の発達を促すと考えられています。また、将来的にその人の自己理解を促したり、自己評価の低下や不適応感を減らしたりすることにつながります。

乳幼児のコミュニケーションの育ちを確認する手がかりとして、単語が話せるなど言葉の表出が注目されることが多いです。言葉による表出は大人にとってキャッチしやすいコミュニケーションの指標となっているように思えます。しかし、乳幼児期の子どもは言葉を話し始めるより前に様々なノンバーバル(非言語的)コミュニケーションをとろうとしています。例えば、生後9か月から1歳6か月までの間に多くのお子さんに見られる行動として共同注意と呼ばれるものがあります。これは、他者の注意がどこに向かっているのか、他者の指さしや視線の方向を探そうとする行動です。また、共同注意の力が育ってくると、見てほしい物がある時にそれを大人のところへ持って来たり、何かに興味を持った時に指をさして他者に伝えたりする行動が見られます。これは、自分の気持ちを他者の気持ちに重ねることの始まりとなり、社会性の芽生えだと考えられます。

乳幼児期は生活リズムの形成や人への基本的な信頼感を土台とし、著しい心身の発達がみられる時期です。様々な発達が進んでいく中で、見逃してしまうかもしれない社会性の発達の視点も大切にしていけるといいですね。また、乳幼児期は特に発達の個人差が大きい時期だからこそ、お子さん一人ひとりに合ったサポートを考えていきたいですし、発達支援センターがそのお手伝いをできるといいなと思っています。

参考:発達障害ナビポータル

(国立障害者リハビリテーションセンター・国立特別支援教育総合研究所)

・1歳を迎えるお子さんをもつ保護者の方へ

(独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

児童・思春期精神保健研究部)